

## 様式

# 自己評価委員会報告書

自己評価委員会委員長

実施機関から提出された自己評価等報告書について、下記のとおり助言したので、委員会意見を付して報告します。

令和4年6月15日

### (対象年度)

対象年度	令和3年度(2021年度)
------	---------------

### (評価対象)

実施機関名	英語英文学科、国際文化学科、食物栄養学科、生活デザイン学科
-------	-------------------------------

### (主な助言)

#### (3つのポリシー)

- ・カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに対する成果を具体的に簡潔に記載してください。
- ・カリキュラム・ポリシーの質を保証するために学科組織で実施した取組みを具体的に簡潔に記載してください。
- ・アドミッション・ポリシーに対する成果を追加で記載してください。

#### (統計値)

- ・統計資料は、直近2か年以上を記載してください。

#### (目標と方策)

- ・定量的指標を付記してください。
- ・改善策は、その手法を含め具体的に記載してください。

### (自己評価委員会意見)

- ・各ポリシーに対する成果指標を開発してください。(例えば、カリキュラム・ポリシーに対する習熟度、ディプロマ・ポリシー1に対する指標など)
- ・カリキュラム・ポリシーを保証する組織的な取組みを充実してください。(例えば、授業ピアレビュー、学科単位のFD研修、学修ポートフォリオなど)

### 添付資料

- ・自己点検報告書(実施機関作成)

様式

## 自己評価報告書

### (評価対象)

実施機関名	英語英文学科	代表者氏名	学科長
評価年度	令和3年度	作成者氏名	学科長

### (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及び ディプロマ・ポリシー 又は設置趣旨	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>英語によるコミュニケーション力を、英語運用能力とそれを支える幅広く深い教養として位置付け、実用的な英語運用能力を伸ばすための「実用英語」科目と、豊かな教養を身につけるための「英文講読」科目及び「英米関係講義」科目。</li> <li>実用的な英語運用能力を伸ばすために必要な要素を、「読む力」「書く力」「聞く力」「話す力」とし、これら4技能の力をバランスよく向上させることができるよう、質・量ともに充実した「実用英語」科目。</li> <li>幅広く深い教養を修得するために、「英米文学」「英語学」「英語教育学」「現代コミュニケーション学」などの学問を体系的に学ぶことができる「英文講読」科目と「英米関係講義」科目。</li> <li>少人数の演習科目、ゼミナール科目など、参加型の科目を数多く設置することにより、自ら考える姿勢を養い、自分の意見を他者にことばによって伝える力を体得する。</li> </ol> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>英米及び英語圏の言語、文学、文化などを学ぶことを通して、自己と世界に対して目を開き、幅広く深い教養を修得し、異文化や他者に対する細やかな想像力をもつ学生。</li> <li>実用的な英語運用能力を身につけ、国際的な場面や地域社会で活躍できる能力をもつ学生。</li> </ol>
現状説明	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポリシーに基づいたシラバスを策定し、授業を実施した。 →R3年度の1年生のGPA平均2.90(R2は2.76) 【GPAの状況】 2年生は、未算出※(R2は2.73)※R4年度算出のため</li> <li>教学の質向上のためにカリキュラムを見直し、改編した。</li> </ul> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R3年度は、53人に短期大学士を授与した。 →R3年度卒業生のTOEICスコア平均は、525点(R2は547点) 留年1人、退学1人、休学3人、復学6人 【卒業生の状況】</li> </ul> <p><b>アドミッション・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R4年度入学生は、26人(志願者66人) →総合型選抜の合格者は、6人(志願者6人) 【入学生の状況】</li> </ul> <p>⇒編入や就職実績も良好であるが、志願者が減少している。 英語運用能力が伸びていない。 R5の学科改編に対してポリシーを見直す。</p>

### (前年度重点目標の達成状況)

重点目標	TOEICスコアを2年間で平均200点アップさせる。
達成状況	R3年度は、113点(R2は137点)のアップとなり、達成できなかった。
改善事項及び成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生は5月と12月、2年生は12月のCollege TOEIC受験を義務付けた。</li> <li>→1年生の5月は全員受験したが、12月は全員ではなく、2年生の参加が徹底されなかった(1年34人/37人 2年33人/52人)。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・College TOEIC／公開 TOEIC の目標スコア（1 年次 8 月までに 450 点、1 年次 2 月までに 480 点、2 年次 8 月までに 510 点、2 年次 12 月まで 530 点）が達成できていない学生の受験を徹底させる。 →徹底できなかった（目標到達 1 年 27 人/37 人 2 年 26 人/52 人）。</li> <li>・カリキュラム改革：「英語学概論 I・II」を 1 年生に変更、「英語コミュニケーション論 I, II」を 2 年生に変更、「英語圏社会と文化」、「エクステンシヴ・リーディング」を新設した。 →受講者数 英語学概論 I (43 人)、英語学概論 II (39 人) 英語圏社会と文化 (32 人)、エクステンシヴ・リーディング (9 人)</li> <li>・CALL 教室に TOEIC・TOEFL・英検対策の自習教材の活用。自主的に自習に取り組んだ人は、「検定英語演習 II」と「オーラル・イングリッシュ III・IV」の成績評価にプラスとした。 →コロナウイルス感染対策のため出校日が限られ、参加者が少なかった。成績評価プラス該当者 3 人</li> <li>・リーディング III・IV における、多読活動の継続。エクステンシヴ・リーディングでは、8 冊以上の多読と読書レポート、気に入った本に関するプレゼンを課した。リーディング II～IV では、評価全体の 10% 分として、成果を成績評価に組み入れた。 →多読目標達成者率 エクステンシヴ・リーディング (100%) リーディング II (78%)、リーディング III (16%)、 リーディング IV (74%)</li> </ul>
根拠資料	【専門教育科目の受講者数】 【検定等の取得状況】 【多読目標の状況】
次年度の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度課題が達成できなかったため、次年度も継続して取り組む。 →目標スコアに到達していない学生の指導を強化する。</li> <li>・入学定員を連続して充足できなかったため、志願者獲得に取り組む。</li> </ul>

**(新年度重点目標と方策)**

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. TOEIC スコアを 2 年間で平均 200 点アップ、英検 2 級合格率 100%</li> <li>2. R5 年度開設の国際コミュニケーション学科の定員を充足する。</li> </ol>
方策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-1. 英検 2 級に合格していない人は、6 月、10 月、2 月の試験で受験を徹底させる。</li> <li>1-2. College TOEIC／公開 TOEIC の目標スコア（1 年次 8 月までに 450 点、1 年次 2 月までに 480 点、2 年次 8 月までに 510 点、2 年次 12 月まで 530 点）が達成できていない学生の受験を徹底させる。 →1 年生は担任から、2 年生はゼミ担当教員から、受験を促す。</li> <li>1-3. 成績不振の学生に対する指導を強化する。 →1 年次 8 月までに 430 点、2 年次 8 月までに 510 点達成できていない場合や、英検 2 級に合格していない 2 年生を対象に、CALL 教室にある TOEIC・TOEFL・英検対策の自習教材を使った課題や、その他の課題を課す。特に成績不振者は、担任またはゼミ担当者が面談を行う。</li> <li>1-4. エクステンシヴ・リーディング、リーディング II～IV における、多読の取組み →授業内の働きかけを強化し、目標達成者率 100%を目指す。</li> <li>1-5. 海外英語演習の再開、少人数教育体制での授業の質を確保する。 →国際文化学科と協力した再開、授業アンケートを踏まえた授業改善を徹底する。</li> <li>2. 志願者を増やす。 →国際文化学科と協力し、オープンキャンパス開催時期の前倒し、対面と WEB のハイブリッド型の実施、進学ガイダンス 3 会場(校)以上、高校訪問 23 校以上を計画する。YouTube 1 件以上、インスタグラム 14 件以上投稿する。</li> </ol>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2 枚を越えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

統計資料(英語英文学科)

1. カリキュラム・ポリシー指標

(専門教育科目の受講者数) 単位：人 ( ) は、他学科履修生の内数

分野	授業科目	単位数	年次	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
実用英語	ライティングⅠ	1	1	50	50	37
	ライティングⅡ	1	1	48	49	37
	ライティングⅢ	1	2	63	48	52
	ライティングⅣ	1	2	63	47	54
	英文法Ⅰ	1	1	50	50	37
	英文法Ⅱ	1	1	48	49	38
	オーラル・イングリッシュⅠ	1	1	50	50	37
	オーラル・イングリッシュⅡ	1	1	49	49	37
	オーラル・イングリッシュⅢ	1	2	51	37	48
	オーラル・イングリッシュⅣ	1	2	19	16	42
	リーディングⅠ	1	1	50	50	37
	リーディングⅡ	1	1	48	49	37
	リーディングⅢ	1	2	57	45	51
	リーディングⅣ	1	2	38	20	27
	エクステンシブ・リーディング	1	1			9
	英会話 AⅠ	1	1	50	50	37
	英会話 AⅡ	1	1	48	49	37
	英会話 BⅠ	1	1	47	40	27
	英会話 BⅡ	1	1	39	35	16
	英会話 AⅢ	1	2	63	48	52
	英会話 AⅣ	1	2	63	48	53
	英会話 BⅢ	1	2	51	39	21
	英会話 BⅣ	1	2	29	21	19
	海外英語演習	2	1・2	24	0	0
	ビジネス・イングリッシュ	1	2	58	47	48
	タッチタイピング演習	1	1	45	39	
	英語情報教育演習	1	1	46	34	24
	英語論文演習	1	2	31	33	32
	アカデミック・イングリッシュⅠ	1	1			29
	アカデミック・イングリッシュⅡ	1	1			14
	アカデミック・イングリッシュⅢ	1	2			
	インターネット・イングリッシュ	1	2	15	18	15
検定英語演習Ⅰ	1	1	48	45	37	
検定英語演習Ⅱ	1	1	39	40	35	
英文購読	イギリス文学講読Ⅰ	1	1	44	49	37
	イギリス文学講読Ⅱ	1	1	37	49	38
	アメリカ文学講読	1	1	43	39	36
	アメリカ文学講読Ⅱ	1	1	35	45	25
	アカデミック・イングリッシュⅠ	1	1	40	50	
	アカデミック・イングリッシュⅡ	1	1	25	26	
英米関係講義	イギリス文学史	2	2	55	37	47
	イギリス文化論	2	2	54	47	50
	英語学概論Ⅰ	2	1	61	42	43
	英語学概論Ⅱ	2	1	53	29	39
	英語コミュニケーション論Ⅰ	2	2	48	50	
	英語コミュニケーション論Ⅱ	2	2	44	49	
	英語レトリック概論	2	2	29	35	

	英語圏社会と文化	2	2			32
	現代アメリカ事情	2	2	62	43	52
	英語教育学概論	2	2	43	32	35
参加型科目	現代コミュニケーション学研究Ⅰ	2	2	0		
	現代コミュニケーション学研究Ⅱ	2	2	0		
	英語コミュニケーション研究Ⅰ	2	2		11	8
	英語コミュニケーション研究Ⅱ	2	2		11	9
	アメリカ文学研究Ⅰ	2	2	13	8	5
	アメリカ文学研究Ⅱ	2	2	13	8	5
	イギリス文学研究Ⅰ	2	2	15	9	14
	イギリス文学研究Ⅱ	2	2	15	9	14
	英語学研究Ⅰ	2	2	15	6	6
	英語学研究Ⅱ	2	2	15	6	6
	英語習得研究Ⅰ	2	2	15	10	12
	英語習得研究Ⅱ	2	2	15	9	13
	アメリカ社会研究Ⅰ	2	2	5	4	7
	アメリカ社会研究Ⅱ	2	2	5	4	6
	インターンシップ	1	1	5	0	0

(授業の成果 GPA の状況 英語英文学科) 留年生を除く

区分	入学年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
GPA 平均点	1 年生	2.41	2.76	2.90
	2 年生	2.56	2.73	未算出
	総合	2.47	2.75	未算出
	基準最高点	3.0	4.0	4.0

(多読目標の状況 英語英文学科) 単位 : words

区分	目標	科目		R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
1 年前期 (夏休み含む)	140,000	エクステンズヴ・リーディング	達成者率	%	%	100%
			平均			60,000 (8.9 冊)
			範囲			46,508 ( 8 冊) 78,604 (11 冊)
1 年前期 (夏休み含む)	140,000	リーディングⅠ	達成者率	63%	29 %	%
			平均	98,400	83,400	
			範囲	10,800 226,800	0 198,400	
+1 年後期 (春休み含む)	140,000	リーディングⅡ	達成者率	55%	57 %	78%
			平均	92,400	95,500	120,800
			範囲	0 211,200	0 177,800	160,000 248,000
2 年前期 (夏休み含む)	140,000	リーディングⅢ	達成者率	52%	38 %	16%
			平均	94,800	80,600	32,800
			範囲	0 260,400	0 171,200	0 174,000
2 年後期	100,000	リーディングⅣ	達成者率	%	%	74%
			平均			104,000
			範囲			0 212,400

(学外授業等の状況 英語英文学科) 単位：件

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
学外授業(見学)	1 件	1 件	1 件
海外研修	1 件	0 件	0 件
地域連携授業	0 件	0 件	0 件

※学生が参加する授業

2. ディプロマ・ポリシー指標

(卒業生の状況 英語英文学科)

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
卒業予定者	61 人	48 人	53 人
就職希望者(就職率)	40 人(100%)	30 人(100%)	33 人(97.0%)
進学希望者(進学率)	21 人(90.5%)	14 人(71.4%)	19 人(94.7%)
未進路者	0 人	4 人	1 人
休学者	8 人	8 人	3 人
復学者	4 人	7 人	6 人
留年者	2 人	1 人	1 人
退学・除籍者	2 人	1 人	1 人

(実用的な英語運用能力 検定等の取得状況 英語英文学科)

区分	卒業年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
TOEIC 平均点	入学年度	455 点	410 点	412 点
	卒業年度	600 点	547 点	525 点
	上昇点数	145 点	137 点	113 点
実用英語技能検定	準1級	1 人	1 人	2 人
	2級	55 人	40 人	41 人
	2級以上取得率	93.3%	85.4%	81.1%

(幅広く深い教養能力 検定等の取得状況 英語英文学科) ( )は受験者に対する合格率

区分	卒業年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
情報処理技能検定	1級	1 人(100%)	4 人(57.1%)	0 人(0%)
	準1級	6 人(100%)	12 人(75.0%)	3 人(75.0%)
	(表計算)	2級	28 人(93.3%)	23 人(76.6%)
日本語ワープロ 検定	1級	3 人(60.0%)	4 人(80.0%)	0 人(0%)
	準1級	4 人(100%)	2 人(40.0%)	3 人(75.0%)
	2級	15 人(57.7%)	18 人(51.4%)	11 人(55.0%)

(専門教育科目の勉学意欲 卒業時アンケート結果 英語英文学科)

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
増した	45.8%	65.2%	67.4%
少し増した	42.4%	28.3%	28.3%
あまり変わらない	11.9%	6.5%	4.3%

※Q：専門教育科目のカリキュラムについて、全体として勉学への意欲・興味・関心などが促されましたか。

### 3. アドミッション・ポリシー指標

(入学者の状況 英語英文学科)

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
入学者(志願者)	50人(136)	50人(122)	37人(83)	26人(66)
総合型選抜	11人(15)	14人(17)	10人(10)	6人(6)
学校推薦	7人(8)	9人(10)	11人(12)	6人(6)
社会人等選抜	0人(0)	0人(1)	0人(0)	0人(1)
一般選抜	41人(113)	27人(94)	14人(61)	14人(53)

(オープンキャンパスの状況 英語英文学科) 学園祭を除く

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
開催日程	8/9	8/8、9/26	6/20、8/9、9/18
参加者	78人	37人	61人

(本学を希望した理由 新入生アンケート結果 英語英文学科) 複数回答可

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
短期に一般教養や専門知識・技術を身につけるため	11.2%	12.0%	13.5%	10.5%
資格をとるため	11.9%	8.0%	11.7%	15.8%
自分が学びたいことが学べる環境・カリキュラムであると思ったから	19.6%	25.6%	22.5%	19.7%
4大の3年次編入や専門学校などへの選択ができるから	25.2%	20.0%	24.3%	22.4%
卒業後の就職に有利だから	5.6%	8.0%	7.2%	7.9%
公立だから	25.9%	26.4%	20.7%	23.7%

### 4. 地域貢献活動

(教員の地域貢献活動の状況 英語英文学科)

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
公開講座	2件	0件	3件
出前・出張講座	0件	2件	0件
行政等審議会議員派遣	0人	0人	0人

### 5. 研究活動

(外部資金獲得の状況 英語英文学科)

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
科研費採択	1件	1件	1件
奨学寄附金採択	0件	0件	0件

## 自己評価報告書

## (評価対象)

実施機関名	国際文化学科	代表者氏名	学科長
評価年度	令和3年度	作成者氏名	学科長

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及び ディプロマ・ポリシー 又は設置趣旨	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>異文化の人々との交流において私たちの基盤となる日本文化や日本語の理解と能力を高める授業、および現代社会での生活に必要な情報科学の理解と技能を高める授業。</li> <li>国際化する現代で重要な位置を占める英語の能力を高める授業、我が国との交流が深い隣国である中国語や韓国語の基礎を学ぶ授業。</li> <li>人々の生活の背景となる多様な文化や社会、国際関係に関する知識と理解を深める授業。</li> <li>自ら課題を見つけ出し、その解決のために自ら調べ、発表する姿勢を養うための授業。</li> <li>学生各自の関心や将来の進路に則した、実社会への橋渡しとなる授業。</li> </ol> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>さまざまな文化や社会に関する知識を深め、国際化や多文化共生が進む社会において多様な価値観を許容する力を身につけた学生。</li> <li>異文化の人々との交流において基盤となる日本文化や日本語の知識と能力、社会生活において必要な情報科学の知識と技能を身につけ、英語に加えて中国語または韓国語の語学力を用いて、国際化や多文化共生が進む社会において課題を見つけ、さまざまな文化的背景をもつ人々と協調して、その解決に取り組む姿勢を身につけた学生。</li> </ol>
現状説明	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポリシーに基づいたシラバスを策定し、授業を実施した。 →R3年度の1年生のGPA平均3.03(R2は2.98) 【GPAの状況】 2年生は、未算出*(R2は2.98)※R4年度算出のため</li> <li>・教学の質保証のため、所属教員の卒業時アンケート結果を学科会議で共有した。</li> </ul> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年度は、60人に短期大学士を授与した。 →R3年度卒業生の中国語検定合格者は、20人(R2は22人) 韓国語能力試験は、4人(R2は2人) 情報処理技能検定は、43人(R2は32人) 留年0人、退学0人、休学1人、復学1人 【卒業生の状況】</li> </ul> <p><b>アドミッション・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度入学生は、44人(志願者78人) →総合型選抜の合格者は、11人(志願者11人) 【入学生の状況】</li> <li>⇒編入や就職実績も良好であるが、志願者が減少している。 R5の学科改編(国際コミュニケーション)に対してポリシーを見直す。</li> </ul>

## (前年度重点目標の達成状況)

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学科再編に関して       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 韓国語教育をさらに充実し、学生の要望に応え、志願者の獲得を図るため、韓国語、韓国文化・社会の教員の採用</li> <li>(2) 英語教育の体制強化</li> <li>(3) 日本語関連の授業開講の検討</li> </ol> </li> </ol>
------	--

	<p>2. 地域貢献に関して 文化や社会と関連して、地域とかかわる体験型の教育活動を行う。</p> <p>3. 志願者の獲得に関して (1) 進学ガイダンスに積極的に参加して本学、本学科を紹介する。 (2) オープンキャンパスを活用して志願者獲得を図る。 (3) 高校訪問を行って受験生の状況を把握し、本学、本学科を紹介する。 (4) 入試の検討</p>
達成状況	<p>1. (1) 新型コロナウイルス感染症予防による入国制限のため内定者が入国できず、R4. 4. 1 での採用は行わないことにした。</p> <p>1. (2) R5 年度から国際コミュニケーション学科への再編とも関係して、退職者 2 名に代わる英語関連教員の採用が中断している。</p> <p>1. (3) 外国人とのコミュニケーション手段として重要視される「やさしい日本語」の授業を R4 年度から開講する。</p> <p>2. 地域貢献に関して 岐阜市女性センターと協力して、学生による「ぎふし男女共同参画情報紙・織」19 号の企画・編集を行った（3 月発行）。</p> <p>3. (1) 10 会場（校）に参加した。</p> <p>3. (2) 計 79 名の来場者があった（R2 年度 55 名、R1 年度 173 名）</p> <p>3. (3) 12 校訪問した。</p> <p>3. (4) 総合選抜型の出願資格を中国語検定に加えて、韓国語検定取得者も要件とし、一般選抜（個別試験）の試験科目を「2 科目＋共通テストから 1 科目」に加えて、「2 科目＋小論文」の試験区分を増やした。</p>
改善事項及び成果	<p>1. 韓国語関連教員の採用時期は R4. 9. 1(予定)とし、R4 年度から英語英文学科の授業を国際文化学科での授業とする体制に見直した。</p> <p>2. 参加学生 4 名(R2 年度は 3 名)</p> <p>3. 総合型選抜の志願者は増加したが、一般選抜は増加しなかった。</p>
根拠資料	<p>【専門教育科目の受講者数】 【検定等の取得状況】 【入学者の状況】 【オープンキャンパスの状況】 【R3 年度国際文化学科活動報告】</p>
次年度の課題と改善策	<p>・ 定員を充足していない状況を踏まえ、定員数は削減するものの、受験関係者に対する広報強化や魅力あるカリキュラム構成に改編する必要がある。</p> <p>→国際コミュニケーション学科への再編に向けて、引き続き授業科目の整備を図る。</p> <p>→引き続き、地域とかかわる体験型の学びを行う。</p> <p>→R5 年度開設の国際コミュニケーション学科での志願者獲得に努める。</p>

#### (新年度重点目標と方策)

重点目標	R5 年度開設の国際コミュニケーション学科の定員を充足する。
方策	<p>(1) 広報に努める（進学ガイダンス、高校訪問、オープンキャンパスなど） →進学ガイダンス 10 会場(校)以上、高校 12 校以上の参加訪問を計画</p> <p>(2) 高校との交流を検討する（高大連携も検討に） →高校教員と情報交換し連携事業を計画</p> <p>(3) 地域との交流を深める（地域での学びや地域貢献も念頭に） →学生と一緒に「織」20 号の企画・編集に参加を計画</p> <p>(4) コロナ禍での海外研修に代わる教育実践を模索する。 →海外の大学生とのオンライン交流会、国内での地域課題演習を兼ねた学外研修を計画</p>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2 枚を越えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

統計資料(国際文化学科)

1. カリキュラム・ポリシー指標

(専門教育科目の受講者数) 単位：人 ( )は、他学科履修生の内数

分野	授業科目	単位数	年次	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
異文化の理解	地域文化論	2	2	37		
	比較文化論	2	2		67	59
	多文化共生論	2	1			43
	文化人類学	2	2	67	55	0
	日本文化論	2	1	75	60	44(1)
	民俗学	2	2	64	34	31
	アジア文化論	2	1	74	60	37
	中国文化論	1	1	62	55	32
	韓国文化論	1	1	54	42	27
	英米文化論	2	2	68	60	0
	ヨーロッパ文化論	2	2	48	49	32
	文化交流論	2	2	31(1)	20	25
	日本文学論	2	1	41	34(2)	28
	比較文学論	2	2	38	36	27
	国際関係論	2	1	73	59	26
	国際協力論	2	2	51	56	48
情報・言語 コミュニケーション 科目	異文化コミュニケーション	2	2	76	77	60
	カレッジ・イングリッシュⅠ	1	1			
	カレッジ・イングリッシュⅡ	1	1			
	カレッジ・イングリッシュⅢ	1	2			
	カレッジ・イングリッシュⅣ	2	2			
	情報社会論	2	2	8	8	12
	英会話Ⅰ	1	1	70	60	
	英会話Ⅱ	1	1	69	59	
	英会話Ⅲ	1	2	60	24	51
	英会話Ⅳ	1	2	17	8	25
	カレッジ・イングリッシュⅠ	1	1			35
	カレッジ・イングリッシュⅡ	1	1			28
	カレッジ・イングリッシュⅢ	1	2			0
	カレッジ・イングリッシュⅣ	1	2			0
	海外言語・文化演習(英語圏)	1		13	0	0
	海外言語・文化演習(韓国)	1		17	0	0
	海外言語・文化演習(中国語圏)	1		13	0	0
	初級中国語Ⅰ	1	1	63	52	37
	初級中国語Ⅱ	1	1	65	51	32
	中級中国語Ⅰ	1	2	68	65	29
	中級中国語Ⅱ	1	2	22	27	15
	応用中国語Ⅰ	1	2	30	38	31(1)
	応用中国語Ⅱ	1	2	15	24	0
	初級中国語会話Ⅰ	1	1	66	55	37
	初級中国語会話Ⅱ	1	1	67	52	33
	中級中国語会話Ⅰ	1	2	65	62	27
	中級中国語会話Ⅱ	1	2	35	46	14
	韓国語(入門Ⅰ)	1	1	59(3)	53	37(3)
	韓国語(入門Ⅱ)	1	1	36	41	28(2)
	韓国語(会話Ⅰ)	1	2	0	28	23
	韓国語(会話Ⅱ)	1	2	0	17	11

	韓国語Ⅲ	1	2	18		
	韓国語Ⅳ	1	2	7		
	韓国語（文法・読解Ⅰ）	1	1	29	36	19
	韓国語（文法・読解Ⅱ）	1	2	0	25	18
	情報処理概論	2	1	68	60	
	情報科学概論	2	1			43
	情報・統計処理	1	1			
	認知情報処理	1	1			17
	情報処理演習Ⅰ（表現）	1	1	70	59	
	情報処理演習Ⅰ（関数）	1	1	68	59	
	情報処理演習Ⅱ（応用）	1	2	51	23	46
	情報処理演習Ⅲ（発展）	1	2	14	23	17
	やさしい日本語（作文）	1	2			
	日本語表現法Ⅰ	1	1	74	60	43
	日本語表現法Ⅱ	1	1	30	41	34
関連科目	現代国際事情	2	1	48	35	
	国際経済論	2	2	0	22	20(1)
	人間関係論	2	1	39	39	40
	観光論	2	2	65	72	49
	ホテル論	2	1	68	51(2)	37
専門演習	専門演習	2	2	74	77	59
卒業研究	卒業研究	2	2	73	77	60

(授業の成果 GPA の状況 国際文化学科) 留年生を除く

区分	入学年度	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)
GPA 平均点	1年生	2.64	2.98	3.03
	2年生	2.77	2.98	未算出
	総合	2.69	2.98	未算出
	基準最高点	3.0	4.0	4.0

(学外授業等の状況 国際文化学科) 単位：件

	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)
学外授業(見学)	1件	1件	3件
海外研修	3件	0件	0件
地域連携授業	3件	2件	2件

※学生が参加する授業

## 2. ディプロマ・ポリシー指標

(卒業生の状況 国際文化学科)

	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)
卒業予定者	74人	77人	60人
就職希望者(就職率)	61人(98.4%)	50人(98.0%)	47人(95.7%)
進学希望者(進学率)	13人(76.9%)	27人(55.6%)	7人(100%)
未進路者	0人	0人	6人
休学者	4人	1人	1人
復学者	6人	3人	1人
留年者	1人	0人	0人
退学・除籍者	1人	0人	0人

(語学力 検定等の取得状況 国際文化学科)

区分	卒業年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
中国語検定	2 級	1 人	1 人	0 人
	3 級	6 人	3 人	3 人
	4 級	1 人	2 人	1 人
	準 4 級	34 人	16 人	16 人
HKS (漢語水平考試)	6 級	1 人	0 人	0 人
	5 級	4 人	7 人	0 人
	4 級	1 人	3 人	0 人
	2 級	0 人	1 人	0 人
ハングル検定	準 2 級	0 人	1 人	0 人
	3 級	1 人	1 人	0 人
	4 級	0 人	0 人	0 人
	5 級	0 人	0 人	0 人
TOPIK (韓国語能力試験)	6 級	2 人	1 人	0 人
	5 級	0 人	0 人	2 人
	4 級	0 人	0 人	1 人
	3 級	2 人	1 人	0 人
	2 級	1 人	0 人	1 人

(情報科学力 検定等の取得状況 国際文化学科)

区分	卒業年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
情報処理技能検定 (表計算)	1 級	5 人	3 人	10 人
	2 級	35 人	29 人	33 人
情報処理技能検定 (データベース)	1 級	1 人	1 人	0 人
	2 級	0 人	0 人	0 人
日本語ワープロ 検定	1 級	2 人	2 人	4 人
	準 1 級	5 人	2 人	4 人
	2 級	16 人	12 人	9 人
	準 2 級	19 人	29 人	18 人
ホームページ検定	1 級	13 人	10 人	7 人
文書デザイン検定	1 級	15 人	6 人	17 人
	2 級	0 人	0 人	0 人
プレゼンテーション検定	1 級	5 人	4 人	13 人

(専門教育科目の勉学意欲 卒業時アンケート結果 国際文化学科)

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
増した	48.6%	45.5%	35.0%
少し増した	37.8%	44.2%	46.7%
あまり変わらない	13.5%	10.4%	18.3%

※Q：専門教育科目のカリキュラムについて、全体として勉学への意欲・興味・関心などが促されましたか。

### 3. アドミッション・ポリシー指標

(入学者の状況 国際文化学科)

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
入学者(志願者)	68人(171)	60人(157)	43人(89)	44人(78)
総合型選抜	5人(6)	5人(8)	3人(4)	11人(11)
学校推薦	31人(35)	31人(40)	19人(19)	17人(17)
社会人等選抜	0人(0)	0人(0)	0人(0)	0人(0)
一般選抜	32人(130)	24人(109)	21人(66)	16人(50)

(オープンキャンパスの状況 国際文化学科) 学園祭を除く

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
開催日程	7/20、8/9	8/8、9/26	6/20、7/17、8/9
参加者	138人	51人	73人

(本学を希望した理由 新入生アンケート結果 国際文化学科) 複数回答可

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
短期に一般教養や専門知識・技術を身につけるため	15.3%	11.9%	19.1%	16.8%
資格をとるため	12.8%	13.6%	10.3%	13.6%
自分が学びたいことが学べる環境・カリキュラムであると思ったから	24.0%	24.4%	25.0%	28.8%
4大の3年次編入や専門学校などへの選択ができるから	12.2%	13.6%	14.0%	16.0%
卒業後の就職に有利だから	6.6%	11.4%	5.2%	4.0%
公立だから	27.0%	25.0%	25.7%	20.8%

### 4. 地域貢献活動

(教員の地域貢献活動の状況 国際文化学科)

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
公開講座	2件	0件	1件
出前・出張講座	0件	2件	1件
行政等審議会議員派遣	1人	1人	2人

### 5. 研究活動

(外部資金獲得の状況 国際文化学科)

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
科研費採択	2件	4件	2件
奨学寄附金採択	0件	0件	0件

## 自己評価報告書

## (評価対象)

実施機関名	食物栄養科	代表者氏名	学科長
評価年度	令和3年度	作成者氏名	学科長

## (実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及び ディプロマ・ポリシー 又は設置趣旨	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1年次前期には、本学科独自の基礎教育科目として、「基礎実験化学」を開講し、高等学校において化学の未履修者を対象にした基礎教育を行います。</li> <li>1年次から2年次までに、本学科独自の専門科目として、「老年学」、「病態病理学」、「食品微生物学」、「食品品質管理論」、「食品流通論」、「栄養士特論」、「カウンセリング論」の7科目を開講し、管理栄養士に必要な知識も一部先行的に学べる教育を行います。</li> <li>とくに、1年次後期には、現役で活躍している管理栄養士・栄養士を講師陣として迎え、オムニバス形式の「栄養士特論」を開講し、栄養士としての職業意識の育成を行います。</li> <li>2年次には、少人数教育による卒業研究を行い、栄養士に必要とされる高度な専門的知識・技能を習得させるとともに、協調性や対話力など社会性を身につけさせるための教育を行います。</li> </ol> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食品・栄養・人体・疾病に関する幅広い知識を身につけ、高い倫理観と責任感をもって行動ができる学生。</li> </ul>
現状説明	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポリシーに基づいたシラバスを策定し、授業を実施した。</li> <li>→R3年度の1年生のGPA平均2.67(R2は2.69) 【GPAの状況】 2年生は、未算出※(R2は2.72)※R4年度算出のため</li> <li>・教学の質保証のために、学生に対して「授業評価アンケート調査」を実施・分析し、今後の授業改善に努めた。</li> </ul> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年度は、52人に短期大学士を授与した。</li> <li>→R3年度卒業生の栄養士免許取得者は、52人(R2は57人) 留年0人、退学0人、休学0人、復学0人 【卒業生の状況】</li> </ul> <p><b>アドミッション・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度入学生は、58人(志願者92人)</li> <li>→総合型選抜の合格者は、28人(志願者29人) 【入学生の状況】</li> <li>⇒編入や就職実績も良好であるが、志願者が減少している。</li> <li>R5の学科改編(健康栄養)に対してポリシーを見直す。</li> </ul>

## (前年度重点目標の達成状況)

重点目標	志願者を増やし、定員60名を確保する。
達成状況	・R4年度の入学者は58名で、目標とした60名には届かなかった。
改善事項及び成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入試方法を見直し、総合型選抜の定員及び回数を増やした。</li> <li>・広報活動にYouTube、Instagramを追加した。</li> <li>→R3年度の入学者数40名からは、V字回復した。</li> </ul>
根拠資料	<p>【入学生の状況】 【オープンキャンパスの状況】</p> <p>【R4年度一般選抜等入学者確定の経緯】</p>
次年度の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化を迎えた今、年々、入学者の確保が難しくなっている。</li> <li>→これまでの食物栄養学科の定員は60名であったが、新学科・健康栄</li> </ul>

	養学科では 50 名に見直す。 より充実した広報活動を行い、定員確保に努める。
--	--

**(新年度重点目標と方策)**

重点目標	新学科の定員 50 名を確保する。
方策	<p>①学科 Web サイト、YouTube、Instagram の活用。 →YouTube を 4 件以上、Instagram を 11 件以上投稿する。</p> <p>②オープンキャンパス・高校訪問の実施、進学ガイダンスへの参加。 →高校訪問を 15 校以上、進学ガイダンスに 12 会場(校)以上参加する。</p> <p>③学科ニュースレターの発行。 →年 4 回以上、オープンキャンパス時に発行する。</p>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2 枚を越えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

統計資料(食物栄養学科)

1. カリキュラム・ポリシー指標

(専門教育科目の受講者数) 単位：人 ( )は、他学科履修生の内数

分野	授業科目	単位数	年次	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)
社会生活と健康	公衆衛生学	2	2	60	58	52
	社会福祉概論	2	2	60	57	52
人体と構造と機能	解剖学	1	1	58	54	38
	生理学Ⅰ	1	1	58	54	38
	生理学Ⅱ	2	2	59	57	52
	解剖生理学実験	1	2	60	57	52
	生化学Ⅰ	2	1	60	54	38
	生化学Ⅱ	2	2	60	57	52
	生化学実験	1	1	59	54	38
	老年学	2	2	13	21	28
	病態病理学	2	2	16	27	15
食品と衛生	食品学	2	1	60	54	41
	食品学実験	1	1	60	54	41
	食品加工学	2	2	60	58	52
	食品加工学実習	1	2	58	57	52
	食品衛生学	2	2	60	58	52
	食品衛生学実験	1	2	58	57	52
	食品微生物学	2	1	58	54	38
	食品品質管理論	2	2	57	55	49
	食品流通論	1	2	25	31	18
栄養と健康	基礎栄養学	2	1	60	54	41
	栄養学実験	1	1	60	54	41
	応用栄養学	2	1	61(1)	54	42(1)
	応用栄養学実習	1	1	59	54	38
	栄養管理論	1	2	60	58	52
	臨床栄養学Ⅰ	2	1	59	54	38
	臨床栄養学Ⅱ	1	2	60	58	52
	臨床栄養学実習Ⅰ	1	2	59	57	52
臨床栄養学実習Ⅱ	1	2	58	57	52	
栄養と指導	栄養指導論	2	1	60	54	41
	栄養指導論実習Ⅰ	1	1	59	54	38
	栄養指導論実習Ⅱ	1	2	58	57	52
	栄養教育論	2	2	60	58	52
	公衆栄養学概論	2	2	60	58	52
	栄養情報処理実習	1	1	59	54	38
	栄養士特論	2	1	59	52	38
	カウンセリング論	2	2	59	56	42
給食の運営	調理学	2	1	60	55	41
	調理学実習	1	1	60	54	41
	給食管理	2	1	60	54	41
	給食管理実習Ⅰ	1	1	59	54	38
	給食管理実習Ⅱ	1	2	59	57	52
基礎化学	基礎実験化学	2	1	59	52	41
卒業研究	卒業研究	2	2	60	57	52

(授業の成果 GPA の状況 食物栄養学科) 留年生を除く

区分	入学年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
GPA 平均点	1 年生	2.26	2.69	2.67
	2 年生	2.53	2.72	未算出
	総合	2.38	2.70	未算出
	基準最高点	3.0	4.0	4.0

(学外授業等の状況 食物栄養学科) 単位：件

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
学外授業(見学)	3 件	0 件	3 件
海外研修	0 件	0 件	0 件
地域連携授業	2 件	2 件	2 件

※学生が参加する授業

2. ディプロマ・ポリシー指標

(卒業生の状況 食物栄養学科)

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
卒業予定者	59 人	58 人	52 人
就職希望者(就職率)	52 人(98.1%)	54 人(92.6%)	42 人(100%)
進学希望者(進学率)	6 人(100%)	3 人(100%)	9 人(88.9%)
未進路者	1 人	1 人	1 人
休学者	0 人	1 人	0 人
復学者	1 人	0 人	0 人
留年者	0 人	2 人	0 人
退学・除籍者	1 人	1 人	0 人

(食品・栄養・人体・疾病に関する幅広い知識力 栄養士免許の取得状況 食物栄養学科)

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
卒業生	59 人	58 人	52 人
栄養士免許取得	58 人	57 人	52 人
栄養士業務従事者	19 人	28 人	31 人
管理栄養士免許取得	15 人	12 人	20 人

(専門教育科目の勉学意欲 卒業時アンケート結果 食物栄養学科)

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
増した	51.7%	38.6%	56.0%
少し増した	39.7%	49.1%	28.0%
あまり変わらない	8.6%	12.3%	16.0%

※Q：専門教育科目のカリキュラムについて、全体として勉学への意欲・興味・関心などが促されましたか。

3. アドミッション・ポリシー指標

(入学者の状況 食物栄養学科)

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
入学者(志願者)	60 人(120)	54 人(104)	40 人(74)	58 人(92)
総合型選抜	大( )	大( )	15 人(17)	28 人(29)
学校推薦	29 人( 39)	24 人( 26)	13 人(13)	11 人(11)
社会人等選抜	1 人( 1)	0 人( 0)	1 人( 1)	2 人( 2)
一般選抜	30 人(80)	30 人( 78)	11 人(43)	17 人(50)

(オープンキャンパスの状況 食物栄養学科) 学園祭を除く

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
開催日程	8/3、8/31	8/9、9/27	6/20、7/18、8/8
参加者	76人	64人	107人

(本学を希望した理由 新入生アンケート結果 食物栄養学科) 複数回答可

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
短期に一般教養や専門知識・技術を身につけるため	16.4%	18.4%	22.3%	16.5%
資格をとるため	18.6%	23.3%	22.3%	25.2%
自分が学びたいことが学べる環境・カリキュラムであると思ったから	20.3%	14.1%	20.1%	22.1%
4大の3年次編入や専門学校などへの選択ができるから	9.6%	12.9%	7.9%	9.5%
卒業後の就職に有利だから	5.7%	4.9%	6.5%	0.8%
公立だから	28.8%	24.5%	20.9%	25.2%

4. 地域貢献活動

(教員の地域貢献活動の状況 食物栄養学科)

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
公開講座	2件	0件	3件
出前・出張講座	1件	1件	0件
行政等審議会議員派遣	5人	5人	4人

5. 研究活動

(外部資金獲得の状況 食物栄養学科)

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
科研費採択	0件	0件	0件
奨学寄附金採択	0件	0件	1件

様式

自己評価報告書

(評価対象)

実施機関名	生活デザイン学科	代表者氏名	学科長
評価年度	令和3年度	作成者氏名	学科長

(実施機関の使命と現状)

カリキュラム・ポリシー及び ディプロマ・ポリシー 又は設置趣旨	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>デザイン活動全般において必要不可欠な能力を習得するための「基礎科目」を設定し、専門性獲得のための基盤を構築する。</li> <li>専修固有の知識と技術を体系的に身につけるための「専修科目」を設定し、専門的で実践的な能力を習得する。</li> <li>各専修の連関について理解を深め、より広い知見を得るための「展開科目」を設定し、知識と技術を総合的に活用する能力を習得する。</li> </ol> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>各専修が設定した知識や技術の習得目標を達成し、「ものづくり」に関わる能力を身につけている。</li> <li>デザインの思想や意義を理解し、創造的な解決を導き出す「智慧」にもとづいて、社会生活における諸課題に取り組む姿勢を身につけている。</li> </ol>
現状説明	<p><b>カリキュラム・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポリシーに基づいたシラバスを策定し、授業を実施した。 →R3年度の1年生のGPA平均2.53(R2は2.77) 【GPAの状況】 2年生は、未算出※(R2は2.69)※R4年度算出のため</li> <li>教学の質保証のため学科独自のアンケートを入学・卒業時に実施し、授業内容に反映させた。</li> </ul> <p><b>ディプロマ・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R3年度は、53人に短期大学士を授与した。 →R3年度卒業生の衣料管理士2級資格取得者は、12人(R2は17人) 建築CAD検定2級は、0人(R2は0人) 色彩能力検定2級は、4人(R2は15人) 留年3人、退学4人、休学0人、復学1人 【卒業生の状況】</li> </ul> <p><b>アドミッション・ポリシー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R4年度入学生は、68人(志願者130人) →総合型選抜の合格者は、21人(志願者33人) 【入学生の状況】</li> </ul> <p>⇒編入や就職実績も良好であるが、志願者が減少している。特に、ファッション専修の入学者の減少が顕著である。 受験生の確保のための対策が必要となっている。 R5の学科改編(デザイン環境)に対してポリシーを見直す。</p>

(前年度重点目標の達成状況)

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受験生の確保</li> <li>2. 進路支援の充実</li> <li>3. 地域との連携</li> <li>4. 新カリキュラムの実施と検証</li> </ol>
達成状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定員60名⇒68名入学</li> <li>2. 就職率100%達成</li> <li>3. 実施件数昨年比1.75倍</li> <li>4. 実施・検証中</li> </ol>
改善事項及び成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入試方法を見直し、総合型選抜の定員及び回数を増やした。学科WebサイトのYouTube、Instagramの配信数を増やした。</li> </ol>

	<p>2. 地域連携で協同した企業を学生に紹介。3 件の就職先につなげた。</p> <p>3. コロナ禍のため前年度中止となっていた連携を復活させるとともに、十六銀行、モレラ岐阜、清流の国ぎふブライダル協議会、職業能力開発協会など新規の連携を実施した。</p> <p>4. 新カリキュラムについての効果検証として、2 年生に対するヒアリング調査を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科としては概ね目標を達成し、定員割れを回避することができた。</li> <li>→ファッション専修は、目標を下回っており、対応が必要である。</li> </ul>
根拠資料	<p>【卒業生の状況】 【入学者の状況】 【オープンキャンパスの状況】</p> <p>【地域貢献活動の状況】 【R3 年度学科活動報告】</p>
次年度の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R5 の全学科改編予定に対するアンケートにおいて他学科と比較して「デザイン環境学科」の受験意向に変化が見られない。</li> <li>→受験生等関係者に対するわかりやすい説明が必要となる。</li> <li>・ 休退学者が増加しており、対応が必要である。</li> <li>→次年度の重点項目として対応する。</li> </ul>

### (新年度重点目標と方策)

重点目標	<p>1. 受験生の確保と新学科体制の準備</p> <p>(1) 受験生の確保 (60 名の定員以上の学生を確保する)</p> <p>(2) 新学科体制の準備</p> <p>2. 地域との連携の充実 (実施件数昨年度比 1.25 倍)</p> <p>3. 休退学者対策の実施 (休退学者を学生数の 5%未満までにする)</p>
方策	<p>1. (1) 受験生の確保</p> <p>→新学科や教員活動の可視化強化、受験生・高校への働きかけ強化 YouTube 7 件以上、Instagram の配信数の強化、高校訪問 26 校以上の実施、高校との連携した取り組みの策定。</p> <p>1. (2). 新学科体制の準備</p> <p>→担当科目、講義内容等の調整、中期的なカリキュラム変更の検討 教員の補充や休職教員の対応などを加味し、10 月末をめぐりに方針を策定し、シラバス・時間割編成などに反映させる。</p> <p>2. 地域との連携</p> <p>→現在の取組みの強化、新分野との連携、新規就職分野の開拓 CeNCER と連携しつつ、産学や地域との新規連携事業を行い、実施件数の増加を目指す。</p> <p>3. 休退学者対策</p> <p>→休退学者増加の原因分析と対策、新カリキュラムの運用と効果検証 過年度生などに対し専修を超えた学生指導体制を整え、就学状況を維持する。</p>

※適宜枠を広げて記入してください。ただし、2 枚を越えないように作成してください。

※資料は、表題を記して別途添付してください。

統計資料(生活デザイン学科)

1. カリキュラム・ポリシー指標

(専門教育科目の受講者数) 単位：人 ( )は、他学科履修生の内数

分野	授業科目	単位数	年次	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
基礎科目	デザイン概論	2	1	72(1)	61	47(2)
	色彩学	2	1	69	63	47
	基礎造形	2	1	69	61	45
	デッサン	2	1	58	52	38
	生活材料学	2	1	43	33	22
	ファッションデザイン論	2	1	32	32	14
	建築・インテリア概論	2	1	43	32	24
	インテリアデザイン論	2	1	29	39	18
	美術・デザイン史	2	1	47	42	31
	メディアデザイン論	2	1	37	31	31
専修科目 (ファッション)	ファッションデザイン画	2	1			8
	ファッションデザイン画Ⅰ	2	1	17	12	
	ファッションデザイン画Ⅱ	2	2	12	17	11
	ファッションデザイン演習Ⅰ	2	1	17	12	8
	ファッションデザイン演習Ⅱ	2	2	17	17	12
	ファッション造形論	2	1	18	12	8
	ファッション造形演習Ⅰ	2	1	17	12	8
	ファッション造形演習Ⅱ	2	1	10	12	8
	ファッション造形演習Ⅲ	2	2	17	10	12
	ファッション造形演習(和服)	2	2			0
	パターンメイキング論	2	2	18	17	12
	ドレーピング	2	1			8
	ドレーピングⅠ(基礎)	2	1	17	13(1)	
	ドレーピングⅡ(応用)	2	2	8	10	8
	材料管理学	2	2	18	17	12
	テキスタイル素材演習	2	2	18	17	12
	染色デザイン演習	2	2			0
	テキスタイル染色演習	2	2	18	17	12
	ファッションビジネス論	2	1	17	12	8
	ファッションマーケティング	2	1	17	12	8
	アパレルマーチャンダイジング	2	2	18	17	12
	ブランドマーチャンダイジング	2	2			0
	ファッション販売論	2	2	6	7	4
	服飾文化史	2	1	16	11	5
ファッション史概論	2	1			8	
消費科学	2	2	18	17	12	
課題研究	2	1	17	12	8	
専修科目 (建築・インテリア)	建築・インテリア基礎製図	2	1	26	24	18
	建築・インテリア設計演習Ⅰ	2	1	25	24	17
	建築・インテリア設計演習Ⅱ	2	2	20	24	25
	建築・インテリア設計演習Ⅲ	2	2	19	12	6
	建築・インテリアCAD演習	2	1	25	25	17
	空間デザイン演習	2	2	20	17	10
	建築プレゼンテーション演習	2	2			0
	建築計画論	2	1	26	24	18
	公共施設計画論	2	1			17
	住生活論	2	2	20	24	25

	西洋建築史	2	2	20	24	25
	日本建築史	2	2	20	21	13
	建築材料学	2	1	26	24	18
	一般構造	2	1	25	25	17
	構造力学	2	1	25	25	17
	構造力学演習	2	2	18	22	24
	構造計画	2	2	17	16	19
	建築環境学	2	1	25	24	17
	建築設備学	2	1	25	24	17
	施工と生産システム演習	2	2	20	24	25
	施工と生産	2	2			
	建築法規	2	2	20	24	25
	測量実習	2	2	19	24	24
	インテリアディスプレイデザイン	2	2	18	29	26
	インテリアデザイン演習	2	2			0
	課題研究	2	1	25	25	17
専修科目 (ヴィジュアル)	発想トレーニング	2	1	26	25	19
	C G 演習	2	1	26	26 (1)	21
	映像機器論	2	1	26	25	
	映像表現論	2	2	5	16 (1)	3 (1)
	映像表現 (実写)	2	2			0
	映像表現 (アニメーション)	2	2			0
	グラフィックデザイン I	2	1	26	25	19
	グラフィックデザイン II	2	1	26	26	21
	グラフィックデザイン III	2	2	21	25	23
	グラフィックデザイン IV	2	2	20	27	23
	イラストレーション I	2	1	26	25	19
	イラストレーション II	2	1	26	25	22 (1)
	絵本・イラストレーション	2	2	21	25	23
	コミュニケーションデザイン論 I	2	1	26	25	21
	コミュニケーションデザイン論 II	2	2	20	25	23
	DTP 演習	2	2	20	26	17 (2)
	Web デザイン	2	2	16	24	11 (2)
	情報デザイン論	2	1	26	26	23 (2)
	デジタルデザイン表現	2	2	20	27	23
	パッケージデザイン	2	2			0
	インテリアディスプレイデザイン	2	2	0	0	
	インテリアデザイン演習	2	2			0
	課題研究	2	1	25	26	20
	展開科目	生活環境学	2	2	18	30 (1)
テキスタイルデザイン		2	2	14	9	15
地域・環境デザイン論		2	2	12	12	17
生活造形演習		2	2	17	23	12
広告デザイン論		2	2	24	31	25 (3)
卒業研究	卒業研究	4	2	59	68	60
	インターンシップ	2	1・2	0	0	3

(授業の成果 GPA の状況 生活デザイン学科) 留年生を除く

区分	入学年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
GPA 平均点	1 年生	2.19	2.77	2.53
	2 年生	2.34	2.69	未算出
	総合	2.27	2.75	未算出
	基準最高点	3.0	4.0	4.0

(学外授業等の状況 生活デザイン学科) 単位：件

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
学外授業(見学)	31 件	10 件	22 件
海外研修	1 件	0 件	2 件
地域連携授業	16 件	12 件	22 件

※学生が参加する授業

2. ディプロマ・ポリシー指標

(卒業生の状況 生活デザイン学科)

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
卒業予定者	55 人	68 人	53 人
就職希望者(就職率)	47 人(89.4%)	49 人(98.0%)	45 人(100%)
進学希望者(進学率)	5 人(80.0%)	9 人(100%)	5 人(100%)
未進路者	3 人	10 人	3 人
休学者	4 人	2 人	0 人
復学者	0 人	3 人	1 人
留年者	1 人	3 人	3 人
退学・除籍者	1 人	0 人	4 人

(「ものづくり」に関する能力 検定等の取得状況 生活デザイン学科) ( )は受験者に対する合格率

区分	卒業年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
衣料管理士	2 級	18 人(100%)	17 人(100%)	12 人(100%)
ファッションビジネス能力検定	2 級	9 人(45.0%)	10 人(50.0%)	3 人(42.9%)
	3 級	7 人(100%)	3 人(100%)	3 人(75.0%)
ファッション販売能力検定	2 級	2 人(100%)	1 人(0%)	2 人(100%)
	3 級	0 人(0%)	3 人(100%)	1 人(100%)
建築 CAD 検定	2 級	0 人(0%)	0 人(0%)	0 人(0%)
	3 級	6 人(67%)	0 人(0%)	3 人(25.0%)
リビングスタイリスト	2 級	17 人(94.4%)		
色彩能力検定	2 級	22 人(75.9%)	15 人(75.0%)	4 人(100%)
	3 級	51 人(92.7%)	36 人(94.7%)	29 人(96.7%)
マルチメディア検定	ベーシック	19 人(86.4%)	19 人(82.6%)	12 人(80.0%)
Web デザイナー検定	ベーシック	18 人(85.7%)	18 人(85.7%)	15 人(83.3%)
パターンメイキング技術検定	3 級	6 人(100%)	2 人(0%)	

(専門教育科目の勉学意欲 卒業時アンケート結果 生活デザイン学科)

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
増した	39.6%	36.5%	44.0%
少し増した	45.3%	49.2%	46.0%
あまり変わらない	15.1%	14.3%	10.0%

※Q：専門教育科目のカリキュラムについて、全体として勉学への意欲・興味・関心などが促されましたか。

### 3. アドミッション・ポリシー指標

(入学者の状況 生活デザイン学科) 単位：人

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
入学者(志願者)	68人(155)	61人(123)	45人(82)	68人(130)
総合型選抜	15人(35)	14人(31)	13人(15)	21人(33)
学校推薦	26人(30)	26人(34)	17人(17)	24人(27)
社会人等選抜	0人(1)	0人(0)	0人(0)	0人(0)
一般選抜	27人(89)	21人(58)	15人(50)	23人(70)

(オープンキャンパスの状況 生活デザイン学科) 学園祭を除く

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
開催日程	7/20、8/3	7/19、8/1、9.22、9/13.27	6/20、7/17、8/1.9
参加者	146人	83人	134人

(本学を希望した理由 新入生アンケート結果 生活デザイン学科) 複数回答可

	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
短期に一般教養や専門知識・技術を身につけるため	21.8%	23.5%	19.7%	23.1%
資格をとるため	16.8%	17.0%	18.3%	14.9%
自分が学びたいことが学べる環境・カリキュラムであると思ったから	22.8%	26.5%	25.6%	24.6%
4大の3年次編入や専門学校などへの選択ができるから	7.1%	8.5%	10.2%	11.9%
卒業後の就職に有利だから	7.1%	4.0%	2.9%	4.5%
公立だから	24.4%	20.5%	23.4%	20.9%

(各学科の受験意向 高校生アンケート結果) 岐阜市立女子短期大学あり方検討に関するアンケート調査(岐阜市)

	受験したい	受験するか迷っている	受験しない	分からない
英語英文学科	3.5%	5.0%	50.5%	41.1%
国際文化学科	3.5%	5.4%	49.6%	41.5%
⇒国際コミュニケーション学科	4.4%	6.5%	48.9%	40.2%
食物栄養学科	2.6%	6.4%	49.2%	41.8%
⇒健康栄養学科	2.7%	6.5%	48.3%	42.5%
生活デザイン学科	2.3%	6.6%	49.1%	41.9%
⇒デザイン環境学科	1.8%	6.9%	49.5%	41.8%

※対象高校生：過去に本学への志願者が多い県内の高校 n=1,646人

### 4. 地域貢献活動

(教員の地域貢献活動の状況 生活デザイン学科)

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
公開講座	7件	0件	2件
出前・出張講座	4件	0件	3件
行政等審議会議員派遣	12人	7人	9人

### 5. 研究活動

(外部資金獲得の状況 生活デザイン学科)

区分	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
科研費採択	5件	5件	3件
奨学寄附金採択	0件	3件	3件